

公立中学校の部活動について

(位置づけ)

- 平成 20 年改訂の中学校学習指導要領の総則において、「生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、地域や学校の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うようにすること。」と示されている。

(現状)

- 大阪市の中学校は、平成 26 年 7 月の調査によると、在籍数 55,603 人中、運動部所属が 31,117 人 (56.0%) 文化部所属が 13,490 人 (24.3%) である。文化部の男子の所属数が増えている。(下記資料参照)
- 部活動は、学年や学級を離れた集団として、自主的・自発的な活動を展開し、生徒同士がお互いに協力し合ったり、自己の責任を果たしたりする等、社会生活を営む上で必要な協調性、責任感を培うとともに、個性の伸長、体力の向上を図る学校教育活動の一環として、その役割には、現場の教員のみならず、保護者や地域からも大きな期待が寄せられている。

(課題と対応)

- 顧問の転勤などで専門的な指導ができる教員がいなくなる場合や、指導経験の少ない教員が顧問になるという状況もあり、部活動技術指導者招聘事業等を活用し対応している。
- 桜宮高等学校の事案を受け、中学校の部活動指導の場面での体罰・暴力行為の根絶にむけ、平成 25 年 9 月に策定した、「大阪市部活動指針～プレイヤーズファースト～」の徹底を図っている。

— 参考 —

- 部活動技術指導者招聘事業

運動部及び文化部の活動の振興と充実を図るため、特に、顧問の指導力だけでは技術指導が困難な場合で、部活動運営上、専門的技術指導を担当する指導者が必要な場合に限り、学校外から技術指導者を招聘する。

資料 平成 26 年度部活動の状況

(平成 26 年 7 月調査)

	男子	女子	合計
在籍数	28,608人	26,995人	55,603人
運動部	18,589人 65.0%	12,528人 46.4%	31,117人 56.0%
文化部	3,295人 11.5%	10,195人 37.8%	13,490人 24.3%